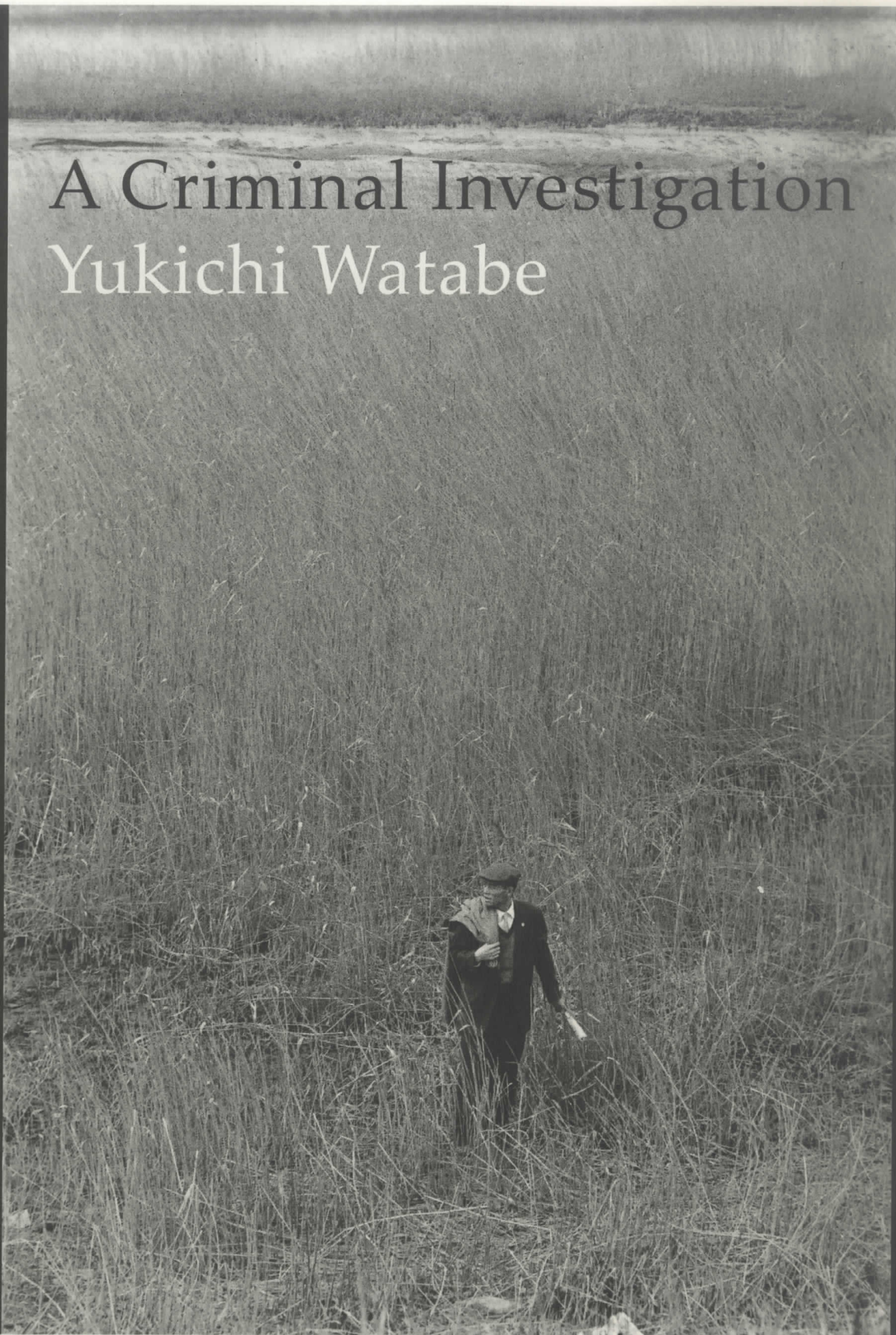
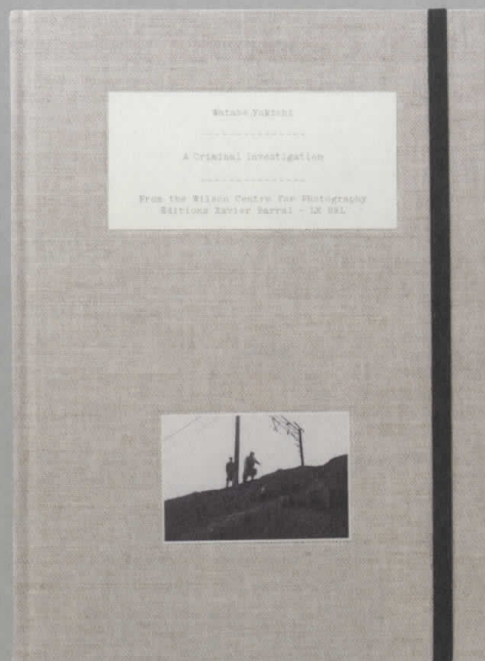


A Criminal Investigation

Yukichi Watabe





2011 Yukichi Watabe 『A Criminal Investigation』 Editions Xavier Barral

Yukichi Watabe 『A Criminal Investigation』

2011年5月、パリの写真ギャラリー『Le Bal』で日本人写真家のグループ展が開催された。北島敬三、高梨豊、渡部雄吉の3名によるこの展覧会「Tokyo-e」は、日本人写真家が海外で再発見されているという事実とその注目度の高さの証左でもある。

そこで紹介された『A Criminal Investigation』は、とりわけ欧州の人々に衝撃と賛辞をもって迎えられた。まだ戦後が色濃く残る東京の町並み。松本清張の作品世界と見まごうフィクショナルでドラマチックな展開。捜査に走り回る2人の刑事はさながら映画俳優のようだ。

撮影したのは、戦後日本のフォトジャーナリズムを担った代表的な写真家、渡部雄吉。1958年、彼はバラバラ殺人事件を捜査する刑事ふたりの記録撮影を警視庁に特別に許可された。写真の一部は、同年6月号の雑誌『日本』に掲載後、近いセレクトで日本写真家協会の写真家55名の作品が収録された写真集『東京』の一部に収められたが、一冊の写真集にまとめることはなかった。

それから約半世紀の後、あるイギリス人が神保町の古本屋で渡部のオリジナルプリントを偶然発見したことをきっかけに、この写真作品に再び光が当たる。2010年のサンフランシスコでの展示を皮切りに、昨年にはパリへと波及していただけでなく、展覧会に合わせて調書を思わせる凝った造本で刊行された写真集は2011年のパリフォトでも人気を集めた。写真家・渡部雄吉の再評価にもつながっている。

写真集の復刻によって忘れられていた写真がふたたび息を吹き返し、また新たな時を刻んでいく。それも海の向こうで——力のある写真の命は長い。

渡部雄吉

1924年、山形県酒田市生まれ。東京光画社へ入社し、その後、田村茂の助手となる。50年に独立、62年に平凡社『月刊太陽』創刊号のため、アラスカ・イヌイトを取材。海外取材も多く、紀行写真分野での草分け的存在となる。主な写真集に「ステンドグラス」(1972年)、『イタリア古都紀行』(1990年)など多数。92年、紫綬褒章受章。93年、死去。



『東京』名取洋之助・編 1961 朝日新聞社
協力:日本写真家協会